

## 乳児保育分野 講師質問コース 回答

この度は、本研修をご受講いただきありがとうございました。  
受講期間中に「令和5年度保育士等キャリアアップ研修 乳児保育 講師への質問受付コース」にて、ご質問いただいた内容について、担当講師からの回答を共有いたします。今後の実践に活かしていただけると幸いです。  
なお、質問を多数いただいたため、多くあった質問を中心に回答しております。ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

※講師回答時期：令和6年2月中旬

Q ……全国で本研修を受講された受講者からの質問内容

A ……質問に対しての講師からの回答

(担当講師：大阪大谷大学 教育学部教育学科 教授 長瀬 美子 氏)

### 関わり

Q 癇癇を起こして泣いている子ども、何か理由があると思うので、「何が嫌だったの?」「嫌だったね」と聞いてみたり、共感したりしても全てが嫌で泣き続けるときがあります。場を変えると良いのかなと感じ、場所を変えて散歩に行くと、落ち着いていく姿がありました。他に対応の仕方はありますでしょうか。

A ご質問ありがとうございました。場所を変えて気持ちを切り替えることもあっていいと思いますが、ごまかすのではなく、「何がイヤだったの?」と聞いてもなかなか答えられないと思いますので、思いを読み取りながら、「〇〇がイヤだったね」という声をかけることは必要だと思います。

Q 2歳児です。4月はお集まりに座って参加するのがなかなか難しかったのですが、毎日声を掛けお集まりしていつの間にか、5月位から座って参加するようになりました。8月に妹が産まれると今度は興味がある事のみする。というようになりました。注意される事もよくあるけど、優しくったり物作りに集中したりといい面もいっぱいあるので、褒められる事もよくあります。下の子が産まれて複雑な心境も考慮していますが、わざと注意されるような行為（お友達が作った物を壊して笑ってる、片付けしないで下に物を落とす）などなど気を引くような事をしています。どう接していけばいいですか?今はその都度叱ったり、お友達の気持ちを伝えたり、一緒に遊びながらお話ししたりしています。

A ご質問ありがとうございました。今行っていることでいいと思います。子どもの状況からくる「おとなの気を引きたい」気持ちを理解したうえで、「危ないよ」「お友だちがつくったものだから壊さないで見ようね」「〇〇くんもつくってみよう」など、いけないことは理由を含めて伝え続けていくことが必要だと思います。その際、「〇〇はダメ」ではなく、できるだけ「\* \*しよう」と促す声掛けにするといいと思います。

Q 配慮が必要な子がクラスにいて、担任保育士が1人しか確保出来ない場合、行事や全体での活動を組む際に、配慮が必要な子のレベルを優先して考えるのか、その他の子のレベルに合わせて良いのかが分からない。

A ご質問ありがとうございました。「どちらに合わせるのか」と二択で考えるのではなく、全体の活動の中で配慮が必要な子どもが自分でできる部分、いっしょにできる部分はどこにあるかを考えるのがいいのではないかと思います。

Q

「思いが生まれるが、言葉に出来ない」「手が出る子に『口で言おうね』というのは悪い事ではない」と研修中にお聞きしましたが、どうしても手が出る子、癩癢が激しい子に対してはどのようにかかわっていったり、言葉をかければいいのかを知りたいですよろしくお願いします。

A

ご質問ありがとうございました。こうした場面では、収めようとたくさん言葉をかけがちですが、いっそう気持ちが高ぶってしまうことも多いです。おとなのことが全く入らない時は、まずは落ち着くことを優先して、声をかけずにそばで寄り添うこと、少し落ち着いてきたら、「〇〇だったね」と思いを代弁すること、その後、「\* \* しようか」と次の行動へと促すことの流れでの接し方が必要ではないかと思えます。

Q

未満児の担任をしており、言葉で伝えることが難しく良く手が出てしまう子がいます。その場合はどのように保護者に切り出せばよいのかのタイミングがなかなか難しいです。保護者との信頼関係は出来ているのですが、家では見られない姿を見せるのが保育園でもあるため、発達段階を理解するのは当然ですが、家庭では見られない姿を園で見られる時はどのようにお伝えしていくべきか疑問に思いました。

A

ご質問ありがとうございました。伝える際には、①「悪いことをした」ということではなく、発達の途上としての姿であること、②家庭での姿と園での姿にちがいはあるのは当たり前であること、③少しずつ望ましい方向に発達していることを伝えることが必要だと思います。

Q

10か月の園児がいるが気に入った玩具を同じ月齢のお友達が使っていると、横から取り上げようとしている様子を見かけるようになりました。自分の意思が出てきているのだなと微笑ましく見守っていますが、見守るだけでよいのか悩みます。言葉かけ等が必要でしょうか？

A

ご質問ありがとうございました。意思が生まれたことは大切なので、すべて止める必要はないと思いますが、「こっちにもあるよ」などと他の物を見せてみたり、「〇〇ちゃんが使ってるから、そのあとで使おうね」と声をかけることも必要かと思えます。

## 食事補助

Q

調理師をしています。自園では、食育は幼児のみが行っており、なかなか乳児まで行えていないのが現状です。まずはどういったものから始めるのがよいでしょうか？

A

ご質問ありがとうございました。幼児の食育は、理解（食べ物の役割がわかるなど）や実施（栽培、クッキングなど）に基づいたものが中心になりますが、乳児の場合、毎日の食事でいろいろな味や食感に出会うことそのものが食育ですし、加えて、食材にふれる、匂いを嗅ぐ、目の前で皮をむいて見せるなど、五感を通して感じることから始めるといいと思います。1歳児から皮むきなどに取り組んでいる園もあります。

Q

嫌いな食べ物が沢山ある子で、日によってはどれも嫌いで食べない時に、どの程度まで、どんな言葉かけや方法で、食べさせれば良いのでしょうか？

A

ご質問ありがとうございました。食事の時間は楽しく、おいしいことが基本です。「嫌いなものを食べさせられる時間」にならないように気をつけましょう。子どもにはその子なりの折り合いがあります。「見ててくれたら」「ほかの子といっしょなら」「一口なら」「小さければ」「次に〇〇を食べる」「先に\* \*を食べてから」など、その子なりの「食べてみよう」を見つけます。その上で、それをがんばったら「もう一口」と欲張らず、そのことを認めます。食事は毎日できる保育内容です。毎日少しずつ取り組みましょう。

## 噛みつき

Q

噛みつきがあった時の子どもへの伝え方はどのようにしたらよいでしょうか。

A

ご質問ありがとうございました。その都度、「〇〇したかったね」と気持ちを受けとめるとともに、「お友だちがいたいよ」などいけないことは理由を含めて伝え続けていくことが必要だと思います。大変ですが続けていくことです。その際、「〇〇はダメ」ではなく、できるだけ「\* \*しよう」と促す声かけにするといいと思います。

Q

噛みつきへの対応例として、大きな声で制止する職員がいます。経験年数豊富な方がしている為、若手もそれが正しいと思っているのか、同じ対応をしています。ワンフロアで隣のクラスからの声なので、日々心が痛みます。自分自身も保育士歴は長いのですが転職で入って2年目という立場なので、それが望ましくないということはどう伝えるべきなのか悩んでいます。

A

ご質問ありがとうございました。職場の人間関係があり、難しいことだと思いますが、「不適切保育」が言われる現在だからこそ、大きな声で制止は子どもを委縮させるので、望ましくないと思います。直接注意するのは難しいかと思うので、まずは先生が穏やかに制止する、気持ちに寄り添っていけないことを伝える姿を示しながら、少しずつ変えていくのがいいと思います。がんばってください。

Q

噛みつきがひどい子(理由もなく、ただ近くに腕があったから噛み付いた、たまたま隣に来た子を噛み付いた等)に対する対応はどのようにすればいいでしょうか？職場でも色々意見が出ているのですが、毎回それで悩まされてるので、アドバイスを頂けると助かります。

A

ご質問ありがとうございました。大人からは「理由もなく」と見えますが、その子どもにとっては理由がある(パーソナルスペースを侵害されたなど)と思います。すべてを理解するのは難しいですが、どんな時に、誰に対してなどを分析し、傾向をつかむことで、少しずつ軽減できるのではないかと考えます。

## 環境

Q

乳児保育の担当制について、子どもの人数に対する保育士の人数は合っていると思いますか？私は一歳児担当ですが、一人で6人の子どものを見るのは多いと感じます。あちらこちらに危険があって子どもの行動を抑止してばかりになりがちです。

A

ご質問ありがとうございました。現在の配置基準は、安全と安心を保って保育をするには無理があると思っています。現在、配置基準の見直しが行われるようになりましたが、0歳児は2対1、1歳児は4対1くらいでないとい人ひとりの発達と必要に合わせた保育はできないと思っています。

Q

研修を受けて、理想的な保育と現場の状況の違いにジレンマを感じてしまう事がありますが、変え難い環境だった場合辛く感じてしまいます。どうしたらいいのでしょうか？

A

ご質問ありがとうございました。環境を物理的には変更できない場合、使い方を工夫することになるかと思います。ある園で、調乳室、トイレ、手洗いなど水回りの位置の関係で、環境を変えにくい保育室がありました。そこで、位置や動線を考えて、保育室の使い方を検討し直しています。可能なところから検討してみてください。

Q

玩具等、数はできるだけ揃えていますが、それでもトラブルになる時も多々あります。トラブルがあった時、噛みつきやひっかきなど危険な時は、すぐ止めに入ってます。トラブルの際の対応は、みなさんどのようにされてるのを知りたいです。例えば、危なくない時には側で見守る。危なくなくてもすぐ止めに入る。など他にもどのような対応があるのかご意見を頂けると今後の参考にさせていただきます。よろしくお願いします。

A

質問ありがとうございます。安全が最優先ですので、すぐに止められる近くにいることは必要です。こうした場面では、収めようとたくさんのことばをかけがちですが、いっそう気持ちが高ぶってケンカが激しくなってしまうことも多いです。おとなのことばが全く入らない時は、まずは落ち着くことを優先して、離して、声をかけずにそばで寄り添うこと、少し落ち着いてきたら、「○○だったね」と思いを代弁すること、その後、「\*\*しようか」と次の行動へと促すことの流れでの接し方が必要ではないかと思います。

## 指導計画

Q

未満児の年間指導計画は3期と4期、どちらに分けたほうがベストですか？

A

ご質問ありがとうございました。4期に区分するのでいいと思うのですが、新入園児が多い場合、1期を長めに取るなどして、安心して過ごせる生活づくりが大切だと思います。

## 担当制

Q

育児担当制を取り入れています。職員の働き方や人数により難しい部分も多いです。学んでいる途中ではありますが、何かいいアドバイスをお願いします。

A

ご質問ありがとうございました。以下の点に考慮して進めるといいと思います。①発達課題の近い子どもをいっしょにすることで、生活リズムをつくる、②生活の流れは全体で決める、それによって連携もしやすくする、③担当以外の子どもの状況も共有する、④あそびにおいては他グループの子どもとのかかわりをつくる（同じことができなくても、見るだけでもいい）、⑤保育の上で困難や難しさが出てきたら、グループ内で解決しようとせず、全体を見直す（グループの変更、流れの変更など）。

## 発達

Q

乳児期ではグレーの子と判断するのは早いですか？

A

ご質問ありがとうございました。乳児期から気になる子どもはいるものです。ただ、「グレーの子と判断する」というのではなく、どんな部分が気になるのか、援助がいるかなどについて、他の子ども以上に様子を観察し、必要な援助を考えていくことが必要だと思います。

Q

これはまた、障がい児保育の方の分野となるのかもしれませんが…クラスに障がい児さんがいる場合の保育の進め方、障がい児さんを含めてのクラス運営について、先生の見解をお聞きしてみたいです。質問が分かりづらくて申し訳ありません。

A

ご質問ありがとうございました。基本となるのはクラスの保育です。ここが安定しないと、一人ひとりに合ったかかわりはできないと思うからです。その上で、全体の活動の中で配慮の必要な子どもが自分でできる部分、いっしょにできる部分はどこにあるかを考えるのがいいのではないかと思います。子どもは保育者の姿勢から配慮の必要な子どもへのかかわり方を学びます。まず先生が、その子どもを理解し、できることは見守る、できないことは援助する姿を見せることが大切だと思います。

## その他

Q

0歳児にあった玩具について詳しく知りたいです。

A

ご質問ありがとうございました。今井和子監修『0・1・2歳児の手づくりおもちゃ 85プラン』（世界文化社）という本などどうでしょうか。この本は、「手指の発達を促すおもちゃ」「好奇心・探究心をはぐくむおもちゃ」「体を動かすおもちゃ」「みたくて・ごっこあそび」「表現力をはぐくむおもちゃ」と分かれていますので、子どもの様子やねらいに合わせて参考にしやすいかもしれません。

Q

乳児への適切な関わりで、私は子どもの様子など帰り際には必ず保護者の方と話すようにしています。保護者の中には、サッと帰られてしまう方もいます。何回か呼び止め話したこともありますが、あまりしつこいのも良くないと思い、保護者の様子を伺い、タイミングを見ながら話すようにしました。この対応はあっているのか、それともほかに良い方法があるのか教えていただきたいです。宜しくお願い致します。

A

ご質問ありがとうございました。直接保護者と話せることが一番いいですが、保護者にも状況と特性があります。無理をせず、相手の得意なこと（連絡帳にはたくさん書いてくれるなど）、できることから接点をもつことがいいと思います。顔を見て一言、「〇ちゃんの様子、連絡帳に書いています。何かあったらいつでも尋ねてくださいね」と付け加えるといいと思います。それだけで話しやすくなると思いますよ。

Q

今の園で働きながら他の園の他の施設の（特に乳児）関わり方や環境やり方を学べる方法はありますか？

A

ご質問ありがとうございました。他園の見学などができるといいのですが、なかなか難しいですね。伊藤美保子・西隆太朗著『動画で学ぶ乳児保育 0・1・2歳児の遊びと援助』（ひとなる書房）という本があるようです。これはDVD付きで保育動画が18本収められているようなので、こういったもので他園の様子を学ぶのも方法ではないかと思います。

Q

「10の姿」について、おすすめの参考書があれば教えていただきたいです。

A

ご質問ありがとうございました。実践例に即してわかりやすいのは無藤隆編著『10の姿プラス5・実践解説書』（ひかりのくに）でしょうか。解説書とは視点がちがうのですが、大宮勇雄・川田学・近藤幹生・島本一男編『現場の視点で新要領・指針を考えあう』（ひとなる書房）は私も一部書いています。

Q

転んだ時に、手で支えることができるようになるために、歩行へ急がずにしっかりとハイハイを楽しむようにする、とありましたが、個々に差はあるでしょうが、ハイハイは、どのくらいの期間を目安にしたら、良いですか？

A

ご質問ありがとうございました。歩行への移行には個人差がありますが、歩行が始まってあそびの中にハイハイを取り入れるのがいいと思います。それが歩行を安定させることにもつながります。あそびへのハイハイの取り入れは、サーキットあそびに入れるなど幼児期までであってもいいと思います。